

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2023年2月）議事録

日時：2023年2月17日（金）午後5時30分～7時00分

場所：ZoomによるWeb会議

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、碓井外幸副理事長、

武政 徹常務理事、

赤間高雄、井福裕俊、太田 真、栗原 敏、

後藤勝正、小山勝弘、下光輝一、須永美歌子、

竹森 重、永富良一、成田和穂、前田清司、

宮内 卓、宮川俊平各理事、

井上 茂、清田 寛、定本朋子各監事、

春山康夫第77回大会事務局長、

松山郁夫第78回大会長、

山津幸司第78回大会事務局長

欠席者：西平賀昭副理事長、大野 誠、新開省二、

須田和裕、田中喜代次、中里浩一、浜岡隆文、

和氣秀文各理事、小林康孝監事、

小橋元第77回大会長

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

前回理事会の議事録において、第78回大会長を第77回大会長に訂正された。また、理事会終了時まで他の訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 学会支援機構の会員管理業務費改定について

（宮川財務委員長）

宮川財務委員長より、2022年12月27日に、学会支援機構から、会員管理費の料金改定のお願いの連絡があったことが説明された。続いて事務局より、資料に基づき、昨今の人件費、各資材、物流費等の物価高騰により、学会支援機構の内部で削減できる範囲を超えてしまったため、これまでの会員管理費1件あたりの費用650円を2023年8月1日から、740円へ値上げをお願いしたい旨、説明があった。続いて学会支援機構代表の村上氏より、事務局から説明があった会員管理費の値上げについての詳細と、補足説明がなされた。これについて、学会支援機構の発足から18年間料金を据え置いていたことと、宮川財務委員長から提案された、全学会員の口座振替登録が完了した場合の会員管理費の値下げを村上氏が承諾したことから、審議の結果、この会員管理費の値上げが承認された。

3. 第79回日本体力医学会学会大会長候補者について

（武政総務委員長）

資料に基づき、立命館大学スポーツ健康科学部特命教授の田畑 泉氏が第79回日本体力医学会大会（滋賀）の大会長に推薦され、審議の結果、承認された。

4. 日本体力医学会名誉会員候補者について

（武政総務委員長）

資料に基づき、名誉会員推薦内規に基づいて、総務委員会にて名誉会員候補者の選出を行った事が報告された。以下の9名が名誉会員候補者として選出され、審議の結果、承認された。今後は、9月の社員総会に

諮り、承認されたのち、名誉会員となる旨、説明された。名誉会員候補者については、下記の通り。

（敬称略）

- ・大野 誠（オオノ マコト）73歳
日本体育大学教授
本学会理事：2006年4月1日～現在
- ・勝村 俊仁（カツムラ トシヒト）73歳
戸田中央総合病院部長
本学会理事：1997年4月1日～2019年9月20日
- ・川原 貴（カワハラ タカシ）72歳
大学スポーツ協会副会長
（前国立スポーツ科学センター長）
本学会理事：2003年4月1日～2019年9月20日
- ・栗原 敏（クリハラ サトシ）77歳
学校法人慈恵大学理事長、
東京慈恵会医科大学名誉教授
本学会理事：1985年4月1日～現在、
第68回大会大会長
- ・坂本 静男（サカモト シズオ）72歳
駿河台大学教授
本学会理事：2003年4月1日～2019年9月20日
- ・下村 吉治（シモムラ ヨシハル）70歳
名古屋大学大学院教授
本学会理事：2009年4月1日～2015年7月31日
- ・田中 喜代次（タナカ キヨジ）71歳
筑波大学名誉教授
本学会理事：2003年4月1日～現在、
第74回大会長
- ・西平 賀昭（ニシヒラ ヨシアキ）72歳
筑波大学名誉教授
本学会理事：2009年4月1日～現在
- ・能勢 博（ノセ ヒロシ）70歳
信州大学大学院医学研究科教授
本学会理事：2000年4月1日～2009年3月31日、
2015年9月19日～2019年9月20日

※年齢は2023年7月31日現在

5. その他

1) 日本動脈硬化学会からの領域横断的連携活動事業（TEAM事業）への協力のお願について（鈴木理事長）

2023年1月24日、日本医学会連合の「領域横断的連携活動事業（TEAM事業）」の公募にあたり、日本動脈硬化学会が『脳心血管病予防のための包括的リスク管理チャート』の改訂事業として応募するための賛同のお願いがあったことが説明された。これについて、理事へのメール審議を行った結果、反対意見がなく、承認されたことが報告された。また、以前「日本動脈硬化学会ガイドライン」の当学会からの査読者として参加した宮内理事を本件の担当者とする事が報告された。

2) 日本体力医学会評議員へのお願いについて（下光評議員会長）

前回の2022年11月18日定例理事会にて承認された、編集委員会からの現評議員への査読に関するお願いについて、資料に基づき、お願い文書と、アンケート内容が確定したことが報告された。これについて、審議の結果、確定したお願い文とアンケートサイトを現評議員へメールで配信し、査読に関するアンケートを集めることが決定した。また、アンケートの回答数によっては、文書及びアンケート項目一覧を郵送で送付することも提案され、承認された。

3) 会員数減少抑制対策検討委員会について (鈴木理事長)

2022年12月16日にオンラインにて、第1回会員数減少抑制対策検討委員会を開催したことが報告された。本委員会では、会員数減少抑制に対する具体的な対策等は無かったが、会員数を増加させるための様々な提案があった。この提案については、理事会で語り、順次実行していくことが、説明された。

4) 学会誌「体力科学」掲載企業広告の代理店について (事務局)

2022年12月21日に、学会誌の「体力科学」に掲載されている企業広告の、代理店事業を行っている日本医学広告社から、2023年3月31日をもって、広告代理店事業を撤退する内容の手紙が届いた旨、報告があった。これについて、事務局から日本医学広告社へ連絡したところ、広告料等、日本医学広告社との取引と同じ条件であれば、代理店の引継ぎ業者として、株式会社文京メディカルを紹介できる旨、返答があった。審議の結果、2023年4月1日からの「体力科学」広告代理店は、株式会社文京メディカルと契約することが承認された。

5) 第31回日本医学会総会について (栗原理事)

2023年4月21日に東京で開催される、第31回日本医学会総会のテーマ及び歴史等、概要について説明があった。また、本総会への参加登録内容と開催内容の周知案内のため、理事、監事へ、第31回日本医学会総会のパンフレットを送付したことが報告された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 編集委員会 (後藤編集委員長)

資料に基づき、「JPFSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況が報告された。

(1) 「JPFSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況
<投稿状況>(2022年9月1日~2023年1月31日)

「JPFSM」誌：新規投稿15編 (内海外3編)

1/31現在、審査中8編

※前年同期間：新規投稿34編 (内海外5編)

「体力科学」誌：新規投稿10編

1/31現在、審査中4編

※前年同期間：新規投稿27編

<発行予定>

「JPFSM」誌

○Vol. 12, No. 2 (2023年3月25日発行)

Regular Article 1編+(今後の受理論文)

「体力科学」誌

○Vol. 72, No. 2 (2023年4月1日発行)

原著3編, 資料2編

○Vol. 72, No. 3 (2023年6月1日発行)

原著5編

○Vol. 72, No. 4 (2023年8月1日発行)

原著2編+(今後の受理論文)

2) 学術委員会

(1) スポーツ医学研修会委員会 (碓井学術委員長)
中里スポーツ医学研修会委員長の欠席により、碓井学術委員長から、第31回日本体力医学会スポーツ医学研修会の開催日程、及び会場が決定したことが報告された。

会 場 : 日本体育大学東京世田谷キャンパス

基礎コース: 2023年7月1日(土), 7月2日(日)

応用コース: 2023年8月18日(金), 8月19日(土)

修了試験 : 2023年8月20日(日)

(2) 学会賞選考委員会 (前田学会賞選考委員長)

学会賞選考委員会委員の内1名が、委員辞任の申し出により欠員することとなった。

現委員数での選考に支障が無いため、2021年11月19日定例理事会での承認事項同様に、欠員した委員の補充は行わないことが報告された。

3) 渉外委員会 (永富渉外委員長)

ECSSとのシンポジウムについて、中京大学の紙上敬太氏のシンポジウム案が採択され、参加するとの報告があった。また、他の国内外における渉外委員会の活動進捗状況が報告された。

4) 広報委員会 (須永広報委員長)

第31回日本医学会総会における、分科会の展示物企画について、当学会の広告ポスターを作成し、提出したことが報告された。

5) 男女共同参画推進委員会

(須永男女共同参画推進委員長)

男女共同参画学協会連絡会の第1回運営委員会に出席した旨、報告があった。また、2021年10月から11月まで実施された大規模アンケートについて、回答結果が男女共同参画学協会連絡会のホームページに掲載されたことがご報告された。

2. 第77回(栃木)大会の進捗状況(小橋第77回大会長)

小橋大会長の欠席により、春山大会事務局長から、第77回(栃木)大会の決算報告と、公認会計士による監査が終了したことが報告された。

3. 日本体力医学会特別大会—2023東京シンポジウム—について(前田実行委員長)

前田大会事務局長より、資料に基づき、日本体力医学会特別大会—2023東京シンポジウム—の進捗状況が報告された。

会 期: 2023年9月17日(日)

会 場: 早稲田大学大隈記念講堂(早稲田キャンパス)

〒169-0071 東京都新宿区戸塚町1-104

大会長: 鈴木政登

(一般社団法人日本体力医学会 理事長)

4. 第78回(佐賀)大会の進捗状況(松山第78回大会長)

大会事務局の山津幸司氏より、大会の準備状況について報告された。

第175回日本体力医学会関東地方会 開催概要

会 期：2023年9月9日(土) 13時～17時30分(予定)
 会 場：山梨学院大学 40号館1階 101-102教室
 (山梨県甲府市酒折2-4-5)
 テー マ：楽しく健康的なライフスタイルを支える地域
 リソースの活用
 会 長：小山勝弘(山梨学院大学スポーツ科学部教授)
 事務局長：安藤大輔(山梨大学大学院総合研究部教育学
 域准教授)

<大会スケジュール>

開会挨拶：小山勝弘
 (山梨学院大学教授・第175回地方会長)
 1. 特別講演：なぜ、山梨は健康長寿日本一なのか
 -健康寿命と運動習慣の関係-
 演者：山梨大学大学院総合研究部医学域
 教授 山縣然太郎 先生
 座長：山梨学院大学スポーツ科学部
 教授 小山勝弘

2. シンポジウム：子どもの心身の健康課題と学校・行政・大学連携-身体活動の役割と最適な健康支援戦略の探索-

座長：山梨大学大学院総合研究部教育学域
 准教授 安藤大輔 先生
 山梨県立大学看護学部看護関連科学領域
 准教授 山北満哉 先生

演者：学校、行政、家庭等の課題についての情報提供者(調整中)

3. 一般演題(発表7分、質疑3分)

座長：山梨学院大学スポーツ科学部
 講師 矢部哲也 先生他

閉会挨拶：小山勝弘
 (山梨学院大学教授・第175回地方会長)

 ※テーマ、特別講演、およびシンポジウムのタイトルは仮題です。変更になる可能性があります。

第46回（2024年度）公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL
FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF
SPORTS SCIENCE

応募資格：

- ①体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術、およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学、およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
- ②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
この場合、運動生理学的研究でなくとも、あくまで教育現場に於ける身近なテーマで、すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
但し、研究報告等に不慣れな人は、報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。
- ③eAPRINなどの研究倫理教育を修了していること。

学術研究テーマ：

第一部 課題学術研究

本年度テーマ

- ①「暑熱環境下における運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現するウェア、用品に関する研究」
年々過酷さを増す夏の環境下において、スポーツウェア、用品における暑熱環境下での運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現する幅広い視点からの提言を頂きたい。
- ②「運動時におけるウェアの快適性実現の手法、あるいは快適性を定量化する新たな手法や指標に関する研究」
運動前、運動中、運動後において、また外部環境により衣服内の環境は温度、湿度、発汗などにより大きく変化する。スポーツウェアの快適性を幅広い領域に対して実現する手法、ならびに快適性に寄与する機能性の新たな定量方法や指標に関する提言を頂きたい。
- ③「運動時のウェアの快適性と皮膚感覚に関する研究」
皮膚感覚には触覚、圧覚、温覚、冷覚、痛覚などが存在するが、より快適なウェアを設計するために、運動時に衣服が着用者に与える物理的な感覚による影響やそのメカニズムを把握する必要がある。
運動時に衣服が与える皮膚感覚に関する基礎的な研究として、例えば環境による違いや身体上の部位差、性差、年齢差など、運動時の快適なウェア設計のための基礎となる情報を提示いただきたい。
- ④「ウェアによる身体の動かしやすさへの影響に関する研究」
アスリートがパフォーマンスを最大限発揮するため、あるいは一般の方がより快適に運動するために、身体の動かしやすさは必要不可欠であるが、動かしやすさを定量的に評価した研究事例は少なく、その要素も明らかになっていない。
身体の動かしやすさを評価する方法の提案、衣服圧や生地との摩擦抵抗との関連性など、様々な視点から

動きやすさに関する提言をいただきたい。

第二部 自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり、申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって、調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は2023年8月4日(金)編集局着

応募者は、所定の申請書に研究テーマ、分野区分の①～④ A～I、目的、内容および期待される成果等を簡潔に書き、2023年8月4日までに書面にて下記宛提出すること。

(申請書は所定用紙または当財団ホームページよりダウンロードし、A4サイズに出力して提出すること。自作や45回申請書以前の用紙の使用は認めない)

判読性確保のため、書式のフォントサイズは変更しない。

選考方法：

当財団の学術委員により厳正な採点選考を行い、学術委員会にて助成者を最終決定する。

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒567-0086 大阪府茨木市彩都やまぶき2-3-2

デサントジャパン(株)DISC OSAKA内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ

科学振興財団 編集局

TEL 080-1499-1719

ホームページアドレス <http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

E-mail zaidan@descente.co.jp

助成者の入選内定通知：

研究助成の対象として採択された研究者に対し、当財団より書面にて本人宛通知する。

(2023年11月下旬の予定)

なお、入選されなかった方には、12月下旬までに本人宛通知する。

助成金の交付：

第一部「課題学術研究」

入選100万円(研究期間別途設定、件数2～4件)を予定

第二部「自由課題学術研究」

最優秀入選100万円(2～3件)、

優秀入選50万円(17～18件)合計20件を予定

受賞者は、2024年2月に贈呈式にて発表し、助成金は、3月31日までに交付する。

なお、研究助成は個人またはグループを対象とし、所属機関の間接経費、一般管理費は助成の対象にしない。

報告書の提出：

選考の結果、助成金の交付を受けた者は、所定の様式で原稿用紙550字詰22枚前後(図表類を含む)の研究成果報告書(Abstractを含む)を下記期日までに当財団に提出すること。提出された報告書は、当財団の学術委員が査読を行ない、その結果再考・検討を依頼することがある。

第一部 研究期間により別途設定(研究期間が複数年となった場合には、A4サイズ2枚程度の中間報告書を提出)

第二部 2024年6月30日

また、同時に研究助成金使途報告書を提出すること。詳細は入選者に別途通知する。

その他の詳細については、当財団ホームページで確認のこと。

公益財団法人 明治安田厚生事業団 第39回 若手研究者のための健康科学研究助成

研究テーマ ※いずれか1件のみ応募可

- a. 指定課題：健康増進のための実装研究
エビデンスに基づく健康増進策を社会に普及・定着させる方法の開発とその評価を行う「社会実装型」の研究
- b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究

助成の金額

総額1,500万円

- a. 指定課題（1件以内）：1件につき300万円
- b. 一般課題（12件以内）：1件につき100万円

助成期間

2年間

応募資格

- ・健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方（医学・歯学の学士などを含む）
- ・指定課題は50歳未満、一般課題は40歳未満（いずれも2023年6月1日時点…申請開始時点）かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
- ・当該研究助成の既受贈者は除く（第38回までの受贈者は応募不可）

応募締切

2023年8月24日（木）必着

主 催 公益財団法人 明治安田厚生事業団
後 援 日本体力医学会
明治安田生命保険相互会社

選考委員

委員長 井澤鉄也（同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授）

a. 指定課題

委 員：荒尾 孝（公益財団法人明治安田厚生事業団 体力医学研究所名誉所長）

委 員：小熊祐子（慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授）

委 員：川上憲人（東京大学大学院医学系研究科特任

教授）

委 員：島津太一（国立がん研究センターがん対策研究所行動科学研究部室長）

委 員：中村陽一（立教大学名誉教授）

b. 一般課題

委 員：井澤鉄也（同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授）

委 員：井上 茂（東京医科大学公衆衛生学分野主任教授）

委 員：北 一郎（東京都立大学人間健康科学研究科教授）

委 員：永松俊哉（山野美容芸術短期大学美容総合学科教授）

委 員：村岡慈歩（明星大学教育学部教授）

（敬称略・五十音順）

●応募方法：

応募申請書作成の前に当事業団ホームページ掲載の動画内容をご確認ください

申請書を研究助成ホームページからダウンロードして作成してください

作成した「申請者情報ファイル（エクセル形式）」と「研究計画ファイル（ワード形式）」を事務局宛にメールでお送りください

※パスワードが設定されたファイルや圧縮されたファイルは受理できません

●申請書ダウンロード：

URL: <https://www.my-zaidan.or.jp/josei/entry/>

●申請書送付：

E-mail: josei@my-zaidan.or.jp

●お問合せ：

公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所 研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

編 集 後 記

体力科学第72巻4号をお届けします。本号には原著論文が5本掲載されております。著者ならびに査読者の先生方のご尽力に感謝申し上げます。近年、多くの国内誌が原著論文の投稿不足に悩まされている中、体力科学は諸先生方の精力的な研究遂行に支えられ常に多くの論文を掲載できていることは大変ありがたいことです。本学会は、医学医療系と体育スポーツ系が密接に結びついた極めて特色ある学会であり、このような方向性の研究分野は今後もますます必要とされるものと期待しています。

さて、以前に66巻1号の編集後記を執筆し、はや6年。世界情勢は大きく変わり、ここ数年はコロナ禍やウクライナ紛争のニュースを見ない日はありませんでした。コロナ禍は随分と解消されましたが、私自身は研究の遅れを取り戻せずにいます。また6年前の編集後記ではプーチン大統領のニュースを取り上げましたが、そのときはまさか現在のような紛争が起こるとは想像もできませんでした。AI技術も生成系AIの発展等によりフェーズが大きく変わろうとしています。このように予測困難な出来事が世界中で発生し、世界のパワーバランスも大きく変わりつつあるようです。そして日本も他人事ではない時代に入ったように思えます。しかし、たとえ世界が不確実な時代にあろうとも、大学や研究機関に属する私たちは研究者・科学者（サイエンティスト）であり、その究極の目標は万国共通であるはずで

世界が不確実な時代にある一方、サッカーの三笥薫選手や野球の大谷翔平選手など世界のトップで大活躍する選手が多く育ってきたことは大変嬉しいことです。このようなエリートアスリートが世界の端の日本という島国から育ったことも大変興味深いですし、いち研究者としては、彼・彼女たちの生物学的・精神的基盤、トレーニング

方法、育成、キャリアパス、周囲のサポートなども大変興味深いものを感じます。

さて、話を変えます。私の大学院時代の指導教官が4月に逝去されました。本学会の副理事長を務めておられた西平賀昭先生（筑波大学名誉教授）です。私にとっては大学3年から7年間お世話になった恩師です。西平先生は大変懐の深い先生で、やんちゃ坊主だった私を大変上手に育ててくださいました。実は西平先生は筑波大学の体育の博士一号でした。体育初の博士論文の審査、西平先生にお聞きしたところでは、極めて厳しく、2時間ほど延々と質疑応答が続いたそうです（まさにDefence!）。大激論の末、質問も尽き、いよいよ審査員の先生方にも疲れが見え始めた頃、主査の先生が「これだけでできればもうよろしいのではないのでしょうか?」という主旨のことを述べられ、満場一致で合格となったそうです。西平先生の博士論文は、運動と神経系の関わりについて、事象関連脳電位や誘発電位、誘発筋電図等を用いた当時最新の実験的研究をまとめられたもので、そのうちいくつかは体力科学に掲載されています。学位授与式では学長から学位記を授与される際に一言こう声をかけて頂いたそうです。

「これで体育もサイエンスになりましたね。」

体育がサイエンスになってから約50年が経ち、時代は大きく変わりました。体育が今後もサイエンスとして意味のある知見を人類に供与していくために、私も微力ではありますが、この体力医学という異分野融合的な研究分野において尽力できればと思っています。

木田 哲夫

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.72, No.4

体 力 科 学 第 7 2 巻 第 4 号

令和 5 年 7 月 25 日 印 刷
令和 5 年 8 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

後 藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社